

ステップファミリー応援

～無理のない家族のカタチを作っていくために～

女性ライフサイクル研究所フェリアン 桑田道子さん

ステップファミリーという言葉はあまり聞きなれない言葉ですが、いわゆる「子連れ再婚家族」のことです。2015年度の婚姻カップル数に対する再婚カップル数の割合は、26.8%（婚姻カップル635,156件、再婚カップル170,181件）。女性、男性のどちらかが子どもを連れた再婚も含まれます。

今回は「ステップファミリーのおとなのための基本ハンドブック」(SAJ発行 2016年)をテキストに、ステップファミリーの置かれている現状をお伝えします。

おとなも子どもも幸せになるために、個人の多様な生き方、多様な家族が存在していることを認めあうことが大事なテーマのひとつです。



ステップファミリーはどんな家族？

再婚カップルといっても【夫再婚-妻初婚】【夫初婚-妻再婚】【夫再婚-妻再婚】のケースがあります。また、離婚のみならず死別も含まれますので、再婚にも様々な場合が考えられます。初婚の場合は、子どもが生まれることにより新しい家族関係が築かれますが、ステップファミリーの場合、再婚によって新しい夫婦関係を始める前から、親子関係が築かれています。離婚により多くの喪失や変化の後に新しい生活がスタートします。親も子も、無意識に離婚前の生活を生活習慣として持ち続けます。また、子どもにとっては離婚にせよ死別にせよ、自分のもう一人の実親が現実または記憶としてこの世界のどこかで生き続けています。そのため、再婚生活がスタートしても、前の家族と今の家族の間で、家族誰もがしばらく不安定な状態となります。

ステップファミリーの課題

ステップファミリーに対する思い込みが私たちにはあります。その思い込みがあるため、当事者は悩み苦しみます。いくつかの思い込みについて点検してみましょう。

思い込み① 一緒に暮らせば家族になれる

ステップファミリーは、違った経験や習慣を持ったおとなと子どもが家族になる、非常に複雑な家族です。そのため、お互いに分かり合い、前向きな関係を築き、家族の歴史を作り上げるには、通常最低でも4年以上かかるといわれています。

思い込み② パートナーを愛していれば、その子ども(継子)もすぐに愛することができる

人間関係を作るには時間がかかるものです。実の親子のようになるべきだという過大な期待は、家族に不満や罪悪感を与えかねません。まずはお互いに思いやりと敬意を持てる関係をめざすことを考えましょう。

思い込み③ 親の離婚・再婚を経験した子どもは問題を抱えている

子どもは親の離婚、再婚後、新しい環境に戸惑い悩む時期があります。時間はかかってもほとんどの子どもは心の安定を取り戻します。5～10年後には多くの子どもが初婚家庭の子どもとほとんど変わらないことが研究で分かっています。

思い込み④ 継母は意地悪だ

おとぎ話やテレビドラマに登場する継母は意地悪に描かれています。継母に対する偏見のせいで、継母は自分が意地悪な継母になっていないか、他人からどう見られるか、どうしついたらよいかなどについて悩みます。研究では、継母が家族の中で最も難しい役割だということがわかっています。